



第13号 佐倉三田会だより

佐倉三田会事務局

平成27年6月発行

会長挨拶

会員・塾員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。



佐倉三田会は今年15周年を迎えることとなりました。この間、諸先輩あるいは各会員、ご家族の支えのもと、親睦団体として堅実な発展を遂げてまいりました。昨今では

当会独自の活動に加え近隣三田会、佐倉稲門会とのお付き合いも広がり、近隣三田会からは弊佐倉三田会の活動を高く評価する声も出てきております。

本年度も昨年12月のファミリーパーティーをはじめ、各愛好会の活発な活動が継続して行われており、人気のある「散策会」、八千代三田会とのゴルフ交流戦、また稲門会との共同行事としては恒例のゴルフ親睦会、4月の「野草を食べる会」、本年7月末に予定しております合同講演会（本年は佐倉三田会主催で、弊会会員の鹿島晴雄氏による健康に関する講演会）等、会員間、近隣各団体との親睦を深めてまいりました。

本年7月の総会での記念講演は、義塾法科大学院出身で全盲の弁護士として活躍しておられる、大胡田誠氏をお願いしております。

大胡田氏は日本で3人目の全盲の弁護士であり、一般民事事件や企業法務、家事事件（相続、離婚など）や刑事事件などに従事するほか、障害者の人権問題についても精力的に活動されております。

8年におよぶ苦学、5回目のチャレンジで司法試験に合格など類まれな努力をされて現在の大胡田氏があります。

まだ38歳の若さながら、その苦学、努力を通じて得た識見、人格は我々を魅了して止みません。ぜひ多くの方々、特に若い会員の方々に講演をお聞きいただければと願っております。

園田紀之 (S40 商)

第15回佐倉三田会総会・講演会・懇親会ご案内

日時：平成27年7月4日(土) 16:00～20:30頃
会場：ウィシュトンホテル・ユーカーリ
総会：午後4時～4時40分
講演会：4時40分から5時40分
講師：弁護士・大胡田 誠 氏
演題：全盲の私が弁護士になった訳
懇親会：講演会終了後
慶應義塾大学のクラブ
[A Cappella]による演奏?があります。

平成26年度がどんな年であったか振り返ってみると、余りにも様々なことがあって記憶すら難しいというのが実感です。

佐倉三田会でいうと、副会長であった清友宏昭さんが闘病の甲斐もなくご他界されたことです。

これも佐倉三田会の歴史の一齣とは思いますが残念の極みでした。残された幹事一同更に精進して、より良い集まりにする所存です。

今後とも会員の皆様の一層のご支援を賜りたく、大勢の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

大胡田 誠 氏 プロフィール



1977年静岡県生まれ。先天性緑内障により12歳で失明する。筑波大学付属盲学校の中学部・高等部を卒業後、慶應義塾大学法学部を経て、慶應義塾大学大学院法務研究科(法科大学院)へと進む。8年に及ぶ苦学の末に、2006年、5回目の

チャレンジで司法試験に合格。

全盲で司法試験に合格した日本で3人目の弁護士になった。07年から渋谷シビック法律事務所に在籍し、債務整理や家事事件（相続、離婚など）、国選弁護などに従事するほか、障害者の人権問題についても精力的に活動している。

趣味はランニング。09年にNew Yorkシティマラソンに出場し、5時間16分で完走した。

（以上、下記ホームページより引用）

<http://www.febe.jp/documents/special/lawyer/>

懇親会の部・慶應義塾大学 ”WALKMEN “

WALKMEN は我が母校のアカペラサークルです。ご紹介はWALKMENの公式サイトから引用します。



WALKMEN 公式ウェブサイトより

「WALKMEN」って？

あなたはアカペラというものをご存知でしょうか？

アカペラ、それは声が織りなすオーケストラで、楽器も使わず、声だけを使ってハーモニーを奏でる音楽です！

ハーモニーを奏でることは楽器よりも難しいことですがハマった（調和した）瞬間にアカペラの魅力に引き込まれていくことでしょう！WALKMENは歌うだけではなく、合宿や飲み会の当り前のサークル活動だけじゃない、それ以上に仲間との日々があります。

あなたも一緒にハーモニーを奏でてみませんか？

「主な活動内容」

サークル員の普段の活動は、毎週木曜日の放課後に全体練が行われていて、年に2度のサークルライブに向けての練習や、各イベント企画の練習などを行うほか、サークル内で仲良くなった人たちでバンドを組んで自主練習をしています！

下記はWALKMENの公式Websiteです。

<http://www.symphonic-net.com/walkmen/>

平成26年度・佐倉三田会活動報告

1. 第14回佐倉三田会総会・講演会・懇親会

平成26年7月5日（土）ウイッシュトンホテルにて開催。

来賓12名（慶應義塾塾員センター部長、蠣崎元章様、藤崎一郎様（講師）近隣三田会、佐倉稲門会から9名、他1名）、会員50名の総勢62名の出席者となりました。

[第1部：総会]



午後4時から開催され、議案1-5号議案が報告、説明され、個々の議案に関して全員一致で賛同を得、終了しました。

[第2部：講演会]



講師 藤崎一郎様（前駐米大使、上智大学教授、日米協会会長）

演題 「国際情勢のとらえ方」

[第3部：懇親会]

アトラクションとして八千代三田会会員の方によるジャズバンドが演奏されました。

2. 第7回佐倉三田会ファミリーパーティー

平成26年12月21日(日) ウィッシュトンホテルにて開催。

- * 会員、ご家族含めて50名の参加者になりました。
- * 講演 山万(株) 常務取締役 林 新二郎様
- * 演題 「サステイナブルコミュニティの実現を目指して」
- * カラオケ大会
- * リサイクル・グッズ・ドネーションを実施しました。

3. 幹事会の開催 毎月開催(1, 7月休会)

4. 各愛好会・佐倉三田会サロンの開催

ゴルフ、囲碁、麻雀、カラオケは毎月1回開催。今年から、歴史散策会を結成して、佐倉の郷土史、里山散策という事で、第1回が開催された。サロンは講演会を中心に今後とも実施していく。

5. 佐倉稲門会との交流

稲門会とは3年前からゴルフ親睦戦を手始めに交流を深め、講演会の共同開催、野草の会等を実施した。

6. 近隣三田会との交流

近隣三田会(八千代、四街道、千葉、船橋、市川、浦安)の総会出席、又、各愛好会も交流が進んでいます。

各愛好会および佐倉三田会サロンの紹介

[ゴルフ愛好会]



本愛好会は、ゴルフを通じて会員の健康と親睦を図ることを目的に2001年(平成13年)9月に結成、その9月に第1回ゴルフ大会を習志野CCにて開催。その後も多くの方々のご協力、ご参加を得て活発に活動を続けています。この会は会員相互の親睦はもとより近隣の八千代・四街道三田会、それに佐倉稲門会との親睦・対抗戦も実施し友好、親善の輪を広げています。2011年3月11日の東日本大震災で恒例の八千代三田会との親睦対抗戦は急遽中止、延期致しましたが、その後は予定通りの予定の年間行事を開催しております。

2010年9月7日(火)には泉CCにて、「佐倉三田会10周年記念」の拡大Open Fun Golf大会を開催。好天に恵まれ愛好会メンバーのご家族、塾員ご友人、96名(男性86名、女性10名)の多くの方々にご参加頂き、塾の絆の強さ、有難さを実感致しました。愛好会の会員数は現在約40名、大会は定例ゴルフ会、Open Fun Golf大会を年各2回、それに近隣三田会との大会とで構成されています。

今年2015年の行事予定は次のようになっています。

- | | |
|--------------------|----------|
| 第12回 八千代親睦・対抗ゴルフ | 4月3日(金) |
| 泉CC 終了 | |
| 第30回 定例ゴルフ | 5月29日(金) |
| 総武CC 印旛コース | |
| 第24回 Open Fun Golf | 7月6日(月) |
| 佐倉CC | |
| 第31回 定例ゴルフ | 10月9日(金) |
| 泉CC | |
| 第4回 第4回稲門会親睦大会 | 11月2日(月) |
| or 9日(月) 佐倉CC | |
| 第25回 Open Fun Golf | 12月7日(月) |
| 佐倉CC 予定(終了後忘年会を予定) | |

定例ゴルフは、全員ハンディキャップの下で順位を競う公式競技とし、オープン・ファン・ゴルフは順位を競わず楽しくプレーし歓談して頂くことをモットーとした大会です。多くの女性の方々に是非ご参加頂きたいと思っておりますので、女性の皆様のご参加を心よりお待ちしております。2013年3月に従来のハンディキャップの見直しを行い、第26回定例ゴルフ大会よりの定例ゴルフ大会は新ハンディキャップ適用でのプレーとな

っております。

平成27年度の役員は会長：下山博（法35年）、副会長：橋本政彦（法41年）、杉浦脩士郎（商43年）、幹事今井正弘（経45年）の4名で担当致します。ご協力の程、宜しくお願い致します。

メンバー各位の憩い、交流の場として益々発展出来ますよう一層の努力を致したいと考えておりますので宜しくご支援をお願い致します。

橋本政彦（S41 法）

[囲碁愛好会]

佐倉三田会囲碁愛好会のメンバーは学生時代から打っている人、定年後に始めた人を含めて総勢22名です。現在の会長は井上隆幸さん。

毎月1回10数名、佐倉市ミレニアムセンターに集合して対局を楽しんでいます。

また、新年・五月合宿・10月総会時、年3回大会を開催し、日頃鍛えた腕を競っています。



私も定年後に囲碁を始めた一人です。上達は遅々としていますが、碁の魅力にはまっています。最初は黒石・白石の単純なゲームと考えていましたが、変化が無限に広がり、その変化に感動しています、それがボケ防止につながるのではないかと考えています

月例会では対局だけでなく、初級者は上級者に指導碁を打ってもらい自分の欠点の発見に役立てるようにしています。

合宿時は当然のこと、月例会終了後も反省会を開き、囲碁談義に花を咲かせています。

囲碁は詰碁やネット碁等一人でも楽しめますが、やはり囲碁の醍醐味は対局にあると思います。厳しさの中にも対局を楽しむことがこの会のモットーです。

是非この機会に入会し、新しい仲間を増やしませんか？

山本 勲（S41 経）

[麻雀愛好会]

会員登録数 約30名

毎月第四土曜日 10:30 より、京成佐倉駅近くの雀荘「城」にて開催。

年三回は豪華賞品（北海道の海産物）付きの大会を開催。

いくら負けても上限打ち切りなので安心して参加できます。

メンバーは佐倉市在住の人以外にも、四街道三田会から6名、千葉三田会から1名と佐倉市内に限定せず参加されています。

年三回の大会の時は最大五組まで集まります。

それ以外の時は二組から三組が平均参加人数です。

又それ以外に月二回プライベートで集合しては楽しんでいます。

近年では四街道三田会との交流戦が二か月に一度開催されており更に充実してきております。

そして何よりの楽しみは、年三回の大会の後、表彰式を兼ねて懇親会があり懇親会だけ参加される方もおります。

麻雀はボケ防止に良いことが証明されているので皆様奮って参加されることを期待しております。

天野一良（S48 文）

[カラオケ愛好会]

当会は、入会条件のハードルがかなり低く、どなたでも歓迎されます。

会に参加し、プロ並み(?)の方の歌を目の前で聞くと、あなたはその迫力に圧倒されるはず。初めはあまり出なかった声も次第に出るようになり、やがてあなたの歌を身近で聞いている皆さんが、心から感動され、拍手の嵐がおきます。そうすると、あなたは気分も高揚し、もうやめられません。何よりも音楽をこよなく愛する者の集まりです。会員同士、ともに歌うことで喜びを分かち合い、交際の幅が広まり、先輩・後輩の垣根を越えて良好な関係を構築することに繋がって行きます。カラオケで腹の底から思い切り声を出して歌うことは、健康面で頗るいい結果をもたらしま

す。

今や医学会でも認めている、周知の事実です。

さあ、あなたもカラオケ愛好会の門戸を叩きませんか？一同、お待ちしております。

【現在までの途中経過】

26年3月18日参加者12名、26年4月14日参加者9名、26年5月25日参加者11名、26年6月22日参加者6名、26年7月5日参加者10名、26年7月25日参加者8名、26年8月17日参加者7名、26年10月19日参加者5名

26年11月24日 懐メロ愛好会（主催）と合同で開催。当会の参加者6名

26年11月30日 参加者11名

27年1月18日 当会と懐メロ愛好会合同で開催。参加者総数20名

27年3月22日 懐メロ愛好会（＝千葉三田会、八千代三田会、佐倉三田会合同の会）に当会から6名参加。

松永克樹（S51経）

【佐倉三田会サロン】

第25回サロン（平成26年9月21日）

佐倉ミレニアムセンターにおいて千葉三田会会長の榎方絢子氏をお招きして「薬との上手な付き合い方」と題して講演をお願いしました。榎方会長は国立薬科大学（現、慶應義塾大学薬学部）を卒業され、現在も千葉県薬剤師会理事・習志野市薬剤師会々長の要職を務めておられます。

佐倉三田会も高齢化が進むなか当日は39名にもものぼる多数の参加者があり、常日頃から薬を愛用（？）されていて薬に関心を持たれている方がいかに多いかを改めて痛感しました。人間年を取ると医者や病院との付き合いが多くなり、好むと好まざるとにかかわらず沢山の薬を処方されますが、薬は沢山飲めば良いというものではなく逆に副作用による弊害も増します。したがって、いかに薬と付き合いしていくか、また医者や病院で処方されるままに服用するのではなく薬に対する疑問があれば遠慮なく医者に投げかけていくことも重要であるということを確認させられた内容でした。講演後の質疑応答、その後の榎方会長を囲んでの懇親会では、活発な質問・意見が交換され短い時間ではありましたが有意義なサロ

ンとなりました。

なお、今回のサロンでは4名の旧国立薬科大卒の会員が参加してくれましたが、これを機会に佐倉三田会の今後のイベントにも積極的に参加いただければと思います。

萩原隆一（S45工）

【史跡散策会】

佐倉三田会サロンの中のひとつのイベントとして実施されていた“歴史見て歩き”は、H26年度から「佐倉三田会史跡散策会」として独立して実施することになりました。これまでに久留里城や大多喜城、そして江戸四宿探訪（実際の見て歩きは三宿）と地元から多少足を延ばして実施してきましたが、地元佐倉にも目を向けて佐倉周辺に残る里山と史跡を訪ねる散策にも挑戦していきます

第1回史跡散策会（平成27年3月28日）

【西御門地区塩古郷「根古谷城跡と法泉寺」】

参加者：19名

当日の行程：京成佐倉駅 —（路線バス）→ 神門（停）

—（デマンドバス）→ 西御門（停）→ 妙見神社 → 寝釈迦 → 根古谷城跡・天神社 →（要害の家）→ 真福寺・用草城（館）跡 → 馬頭観音 → 岡田の神社集落 → 法宣寺 → 七曲神社 → 七曲（停）—（デマンドバス）→ 神門（停）—（路線バス）→ 京成佐倉駅 → 【反省会】「秋田屋」



史跡散策会の第1回目として H26 年度も押し詰まった3月末、八街市と境を接する西御門地区を訪れました。この地区は5世紀頃に物部氏一族の塩古連（シヨコムラジ）により麻や麻織物が造られ長く物部郷の中心と

して栄えました。その後 15C 中頃に、千葉氏宗家の前線基地として根古谷城が築城され岩富城の支城としての役を担いましたが、小田原合戦で岩富原氏が属した北条氏の滅亡とともに落城。城が廃されて家臣団が帰農して根古谷村となりましたが、今は交通の便の悪さも手伝って世間の喧騒を忘れたかのような里山です。

本会は目的地までの交通についてはできる限り公共の交通機関を利用するというを主眼にしていますが、今回の目的地である西御門は朝晩 1 便ずつの路線バスしか運行されていないため往復には佐倉市のデマンドバス（佐倉市が市南部の地域に導入している予約制の乗合バスで予め市に登録が必要）を利用しました。

京成線事故の遅れのため集合時間に間に合わない参加者が出るというハプニングもありましたが何とか途中で合流。西御門の妙見神社から八街方面へと進み、八街市との市境の辺りで弥富川の兩岸に広がる田圃地帯に下るとそこは根古谷城跡の崖下です。そこから北の方角を臨むと、弥富川を挟んで対岸に木々のこんもりと繁った丘陵が 1.5km ほど連なり、頭を西に足の先を東の方向に寝ている大きな涅槃像のように見える。まさに自然の造る雄大な芸術です。根古谷城跡に登ると南北約 50m・東西約 30m の小さな曲輪があり天神社が建っている。ここは有事の際に城主がたて籠る「詰めの城」としての場所であり、往時の姿を良く残している。北東側の崖下には「要害（ユゲ）」という屋号の家があり、城主の居館跡とされている。さらに真福寺・用草城跡を巡り、大きく迂回して七曲まで戻る行程約 4 km、2 時間半の散策でした。この日は桜の見頃にはまだ早過ぎたようですが 3 月とは思えないポカポカ陽気の好天に恵まれ、人里離れた史跡を巡りながら一同里山の散策を満喫しました。

途中、その昔物部塩古連の居所だったとされる法宣寺（この辺は八街市）で小休止。予め連絡しておいたのでご住職が不在にもかかわらず、ご住職の奥様に寺院内を案内していただいた。その時に配られた一枚の刷り物によれば法宣寺に伝わる丈余（約 3m）の釈迦涅槃図は、中津藩を脱藩して慶応 4 年の上野の「彰義隊の戦い」に参戦して敗走、政府軍の厳しい搜索追捕を逃れてこの地に辿りついた旧中津藩士の青木某が刀を捨てて隠棲した時に描いて遺したものの由。この青木某と同輩だった福沢先生（諭吉）は“上野の戦いの当日も、殷々と響く砲声を聞きながら、義塾の塾生た

ちを相手に平然と講義を続けていたという。”（跡見学園女子大学短期大学部青木敦書「刀を捨てたとき」より）

佐倉市境に接する辺境に佇む法宣寺において奇しくも福沢先生の名前がでてくるとは思いもよらず、三田会との因縁を感じた次第です。

恒例の反省会（懇親会）は京成佐倉駅前の「秋田屋」で実施。相も変わらず呑兵衛が多く集まり、店側に“予想外！”と云わせるほど日本酒の一升瓶がとぶように空になり大盛り上がりでした。

萩原隆一（S45 工）

平成 27 年度佐倉三田愛活動計画（案）

定例活動

* 平成 27 年 7 月 4 日（土）第 15 回佐倉三田会定期総会

* 平成 27 年 12 月 20 日（日）第 8 回ファミリーパーティー

慶應義塾、近隣三田会、合同三田会、稲門会との交流

* 八千代三田会総会出席

* 四街道三田会総会出席

* 船橋三田会総会出席

* 市川三田会総会出席

* 浦安三田会総会出席

* 千葉三田会総会出席

* 佐倉稲門会総会出席

* 千葉県合同三田会総会出席

* 佐倉稲門会との合同講演会企画、共催（今回、佐倉三田会幹事）とする

今年度の講演会は鹿島晴雄先生（慶應義塾医学部卒）を講師にお迎えし、来る 7 月 31 日（金）午後 2 時から佐倉ミレニアムセンターにて開催予定です。演題は「うつについて」もっと知ろう

* 慶應義塾大学からの催事参加要請に応じて、対応します。

* 近隣三田会、稲門会との親睦ゴルフ、囲碁会、カラオケ交流を計り、親睦を深めていきます。

* 千葉県内にある三田会との親睦会に参加を計画しています。

愛好会活動及び歴史散策会、サロン活動

*ゴルフ愛好会、囲碁愛好会、麻雀愛好会、カラオケ愛好会は各愛好会の企画により、定期的に活動を実施して、会員相互の親睦を深めています。

*歴史散策は佐倉市周辺を散策し、郷土史への理解を深めています。

*サロン活動は講師を招いて身近な話題に関してトークや講演を随時開催します。

幹事会

*原則として毎月開催します(最終日曜日)(除7月、1月)。

会報誌 佐倉三田会だより

第13号佐倉三田会たよりを発行します。(平成27年6月)

各愛好会・三田会サロン・史跡散策会参加申込み先

ゴルフ愛好会

橋本政彦 : Tel: 043-461-7764
Mail: fwji4695@mb.infoweb.ne.jp

囲碁愛好会

有馬 広 : Tel: 043-462-4929
Mail: arima.carlos@sirius.ocn.ne.jp

麻雀愛好会

柳原 実 : Tel:043-461-0497
Mail: yana@catv296.ne.jp

カラオケ愛好会

松永克樹 : Tel: 043-486-1961
Mail: aston@energy.ocn.ne.jp

三田会サロン及び史跡散策会

萩原隆一 : tel: 043-461-9154
Mail:
tkk.hagiwara@orchid.plala.ne.jp

佐倉三田会会員からの特別寄稿



本号にはS58年文卒の永井瑞枝さんからの寄稿をいただきました。

『ポーランド紀行』

平成26年10月23日から30日、私は、佐倉の橋内着付け教室と甲府の日本舞踊グループが主催した『着付けと日本舞踊を通じてポーランド国際親善』で、総勢31名のメンバーの一人としてポーランドに行きました。

ポーランドでは、クラクフ・マンガ館20周年記念行事とワルシャワ大学ジャパニーズデーに参加しました。

10月23日、日本からフランクフルトまで12時間のフライトの後、乗り継いで、1時間半後、ポーランド・クラクフ空港に着きました。時差は、-7時間です。

クラクフは、ポーランドの南部マウオポルスカ地方にある街で、17世紀初めに都がワルシャワに遷るまで600年以上ポーランド王国の首都として繁栄した街です。第二次世界大戦の戦火を免れたため、旧王宮城ヴァヴェル城や聖マリア教会などの歴史的建造物が中世の街並みのまま現存しています。1978年旧市街全体がユネスコ世界遺産に登録されました。

郊外には、世界最古の岩塩坑ヴィエリチカ(地下327メートル、全長300キロ以上、空洞の部屋数2000以上ある岩塩採掘場)があります。近くには、第二次世界大戦中のナチスドイツの強制収容所アウシュビッツがあります。南部マウオポルスカ地方には、世界遺産がクラクフ旧市街地とヴィエリチカとアウシュビッツと3カ所もあります。

10月23日から3日間、私達は、クラクフのヴィスワ川を挟んだヴァベル城の対岸にある日本美術技術センター マンガ館の隣のホテルに泊まりました。マンガ館は、日本美術コレクターの故フェリス・マンガ・



ヤシェンスキのコレクション7000点を所蔵しています。コレクションの中心は浮世絵で、4600点にのぼるそうです。マンガ館は、親日家の映画監督アンジェ・ワイダ監督が京都賞を受賞した際に得た副賞五千万円を基金に、募金を募り、日本人の建築家によって、1994年に建てられました。マンガ館は、日本文化のカルチャーセンターの役割を果たしていて、日本の

美術工芸品の展示や日本語はじめ、習字や生け花などを教えています。

10月24日、クラクフ旧市街を着物で散策しました。歴代国王の居城で戴冠式が行われていたヴァヴェル城のそびえる丘から石畳を歩いて織物会館のある中央広場に行くと、ゴシック様式の聖マリア教会の塔から、1時間毎に「ヘウナウ」と呼ばれる時報ラッパが吹き鳴らされていました。ヘウナウは、塔がつくられた13世紀から、市内のゲート開閉時や緊急時に吹かれていたそうです。モンゴル軍がクラクフを襲ったときも、人々に敵襲を知らせるためにラッパ奏者はヘイナウを吹き鳴らしたそうです。しかし、モンゴル兵の放った矢に喉を貫かれ絶命したそうです。このことを偲んで、現在でも矢が奏者に刺さったときと同じように、メロデーが突然に途切れます。夜中でも、1時間毎にヘウナウが、哀愁を帯びた音色で聞こえていました。中世の時間にスリップしたような感覚にとらわれました。

10月25日、私達は、マンガ館で、橋内先生の指導の下、着付けのショーをしました。日本から持参した



着物をきて踊りました。着物もそれぞれが、紬、無地、付下げ、訪問着、振り袖と種類を違えて着ました。帯も半巾帯、名古屋帯、袋帯で二重太鼓、銀座結び、のしめ太鼓や変わり結びなど様々な締め方をみせました。ポーランド人の女の子にも振り袖を着せてあげました。大喜びでした。

10月26日、世界最古の岩塩坑ヴィエリチカを見学してから、特急列車に乗りワルシャワに向かいました。3時間かかりました。ワルシャワ市内のホテルには、3泊しました。

10月27日、ワルシャワ大学のジャパニーズデイのイベントに参加しました。大学構内に建てられた茶室

「懐庵」の10周年記念でもありました。茶道を習っている学生さんにお茶を点でて頂きました。床の間には、大徳寺の和尚様の掛軸が掛けてありました。お茶碗から飛び石に至るまで全て京都から持ち込まれたそうです。裏千家の先生が、日本から茶道の指導にきて



いるそうです。

私達は、ワークショップで着付けショーを行ったり、ワルシャワ大学日本語学科の学生さんに着物を着せてあげたりしました。日本舞踊のメンバーは、踊りを披露した後、学生さんにお扇子をプレゼントして、お扇子を使って、踊りの指導をしました。

ワルシャワ大学日本語学科は、入学時倍率30倍。大学でも一番人気の学科です。

もちろん授業料無料。3年間で2000字の常用漢字を覚えるそうです。学生さんは、流暢な日本語で、一生懸命、私達に日本の憧れを語っていました。昭和が好きで、黒澤明の映画が好きなど。日本語学科の重鎮・岡崎恒夫先生にもお会いすることができました。岡崎先生のご尽力でお茶室も建築されたそうです。

大学食堂ランチ会の後、ワルシャワ大学構内を学生さんの案内で見学しました。

日本語学科の建物は、以前は、ショパンが学んだ高校だったそうです。ショパンは、1830年20才で故郷ポーランドからウィーンに旅立ちましたが、その後すぐロシア支配下になってしまった故郷に帰ることができませんでした。武器でなくピアノで、ポーランド魂を世界に伝える使命を誓ったそうです。「革命」もその時の強い思いを作曲したものだそうです。大学前の聖十字架教会には、ショパンの「体は戻れなくても、せめて心臓だけでも持ち帰ってほしい。」の遺言により、姉ルドヴィカの手で祖国へ帰還した心臓が安置されている

ます。

10月28日、私達総勢31名は、着物でワルシャワ旧市街を歩きました。ワルシャワ旧市街は、ナチスドイツ軍により徹底的に破壊尽くされた街です。40年に渡る市民運動によるワルシャワ旧市街復興プロジェクトで、昔の絵画や写真・スケッチを下に、煉瓦のひび割れひとつに至るまで再現された街です。1980年ひとびとの「記憶」と「おこない」そのものに尊さをみいだす世界遺産になりました。

ポーランドは、平原という意味の国名の通り、限りなく大平原が広がっている国で、ドイツ、チェコ、スロバキア、ウクライナ、ロシア、ヴェラルシーの国と陸続きの国です。

歴史上、ポーランド国家が成立したのは、1000年以上前。10世紀から17世紀にわたり、ローマカトリック教が公的に布教された中央集権国家でした。しかし、18世紀後半、国土は3回にわたり分割され、国家が消滅したこともありました。第一次世界大戦後、ポーランド独立を果たし、ユダヤ人、リトアニア人、ウクライナ人等の少数民族を同化した国家建設がなされたそうです。

第二次世界大戦、ワルシャワは、ポーランド分割により、ナチスドイツの支配下に入りました。ナチスのポーランド人に高等教育は不要という差別思想の下、ワルシャワ大学は閉鎖され、ドイツ軍の兵舎として接収されました。ワルシャワ大学の教授や学生達は、ワルシャワ秘密大学という地下組織を作り、勉強していたそうです。

1944年8月1日午後5時、連合軍とソ連軍の支援を見込み、ワルシャワ国民軍や市民たちは、ナチス打倒のため蜂起しました。ワルシャワ蜂起の間(2ヶ月間)、禁止されていたショパンの曲が街に流れていたそうです。ナチス打倒のため、ワルシャワ国民軍はじめ市民が果敢に蜂起していたにもかかわらず、ヴィスワ川右岸に待機していたソ連軍は見ているだけで一歩も動かなかったと言われています。20万人もの市民が犠牲になりました。その後、ナチスドイツ軍は、まずショパンの像を壊し、3ヶ月にわたり計画的に報復攻撃を行い、市内ヴィスワ川左岸を灰燼に帰したそうです。

「時計 W」。8月1日午後5時。毎年、ワルシャワ市内にサイレンが鳴り響き、全ての市民は、1分間動きを止め黙祷しています。

10月29日、ワルシャワ空港よりフランクフルト経由で日本帰国の飛行機に乗りました。

帰国後、戦後七十年の行事の記事がやたらに目につくようになりました。ポーランドは、第二次世界大戦後、ソ連の陣営下に入り共産主義国になったため、ワルシャワ蜂起の記録は伏せられていたようです。今、ワルシャワ蜂起時、国民軍によって撮られたフィルムをカラー化し公開することにより、フィルムに映っている人々を一人一人捜し、記憶を鮮明に残そうとしているそうです。ワルシャワ蜂起時、犠牲になった方々全員の名前が刻まれたキリスト教徒の墓碑が完成されたという番組をみました。

1989年ポーランドは、レフ・ヴァウエンサ(ワレサ元大統領)と連帯により、無血で民主化を獲得しました。レフ・ヴァウエンサは大統領になった際、「ポーランドを第二の日本にしたい。」と語ったそうです。ポーランドのGDPは、21年連続プラス成長しているそうです。2003年には、110社だった日系企業も2013年には、281社に増えています。

ポーランドの人々は、とても親日的でした。日本の文化、技術を賛美していました。ポーランドの人々が、歴史上、親日的になる出来事がいくつかあったようです。例えば、大正時代、シベリアに残されたポーランドの孤児765人を日本に連れて帰り、日本赤十字社が面倒をみたことです。その際、全国から玩具や食べ物が届いたり、慶應義塾でも子ども達のために音楽会を開いたそうです。このような献身的な看護や、温かいもてなしにより、来日当初は飢えて体力も衰えていた孤児たちも、二年後全員が無事、元気になってポーランドに帰国したそうです。この765人の子ども達が、ポーランドの国で日本の語り部となり、一生涯、日本に感謝し続けているそうです。

最後に、私感ですが、ポーランド旅行はもちろん楽しく充実したものでしたが、帰国後、皆様にポーランドについてお話するため、色々調べ勉強することができ楽しさが倍増しました。最後まで読んでいただきありがとうございます。

永井瑞枝 (S58 文)

俳句は S39 工 疋田美相様の奥様・佳子様

又、絵は S37 文 柴田恭子様にご提供いただきました。

有難うございました。

霧込むままにプラハの夜明けかな

教会の塔の先端霧走る



チエコの村軒に薪積みみ冬支度

コンサート聴き終え出れば星月夜



聖堂の蝋燭ゆらぎそぞろ寒

佐倉三田会 平成26年度会計報告

(26年4月1日～27年3月31日)

収入の部

単位:円

項目	予算	決算	備考
前年度繰越金	199,396	199,396	
年会費	300,000	252,000	3,000×84名=252,000
総会懇親会費	420,000	457,000	祝い金含む 参加50名+来賓12名
ファミリーパーティー会費	320,000	319,000	参加49名+来賓1名
雑収入	60,000	149,016	連合三田会大会券販売 40,000 利息 46
			寄付金 108,970(リサイクルグッズドネーション94,970、 カラオケ参加費用9,000、匿名5,000)
収入計	1,299,396	1,376,412	

支出の部

項目	予算	決算	備考
総会懇親会	440,000	415,256	ウイシュトンホテル宴会費 387,000 来賓手土産 14,256 その他 14,000
ファミリーパーティー宴会費	330,000	289,870	ウイシュトンホテル宴会費 285,010 手土産 4,860
渉外費	195,000	185,000	千葉県合同三田会 35,000 市川・船橋・四街道・八千代三田会 佐倉稲門会 各20,000 連合三田会大会券購入 50,000
会議費	15,000	16,215	幹事会 4/29・5/25・6/22・8/31・9/21・10/26・11/30・ 1/25・2/28・3/28
事務費・通信費	45,000	16,453	コピー代 980 徽章バラ、印刷代等 14,933 振込手数料 540
その他 予備費	90,000	105,909	総会謝礼他 87,669 早慶合同講演会関連 18,240
(小計)	1,115,000	1,028,703	
次年度繰越金	184,396	347,709	
支出計	1,299,396	1,376,412	

総会での承認前の原案です。

[編集後記]

写真を集めるのが大変でした。良い写真があったらご寄稿ください。来年の三田会だよりに使います。メールをご使用の会員には、この「佐倉三田会だより」をメールに添付して送ります。印刷したものより写真がずっと綺麗に見ることが出来ます。メールご使用の方は下記に空メールを送って下さい。

佐倉三田会代表幹事 今井正弘 natsuko0626jp@yahoo.co.jp